

欺瞞行為に基づく論文撤回率(国別)

	発表論文数 (x 1,000)	欺瞞論文率 (/1000)
米国	140	0.6
中国	28	0.71
日本	25	0.72
インド	13	1.31
英国	41	0.17
トルコ	11	0.18
イラン	5	0.2
アジア計	94	0.67



Country

- USA
- China
- Japan
- India
- UK
- Turkey
- Iran
- All Asian

doi:10.1371/journal.pmed.1001315

Table 2. Ratio of retractions for fraud to total number of papers published for sei... [show more](#)

1st Edition

Collaborative Institutional Training Initiative
생명과학 연구윤리 교육과정

기본과정

피험자 보호와 연구윤리 편

최병인 역

1st Edition

Collaborative Institutional Training Initiative
생명과학 연구윤리 교육과정

심화과정 I, II

피험자 보호와 연구윤리 편

최병인 역

1st Edition

Collaborative Institutional Training Initiative
교육과정

심화과정 I, II 피험자 보호와 연구윤리 편

최병인 역

全国の研究機関・大学が使用する質の高い教材づくり

米国： NPO 全国的ボランティア団体

英国： 企業(Epigeum)

日本： 文科省支援下の大学連携
＋ 全国規模の有志参加



平成24年9月6日 ソウル



CITI International Centers of Excellence

- Sites

- CITI - India

- Dr. Thyagarajan Ph.D., MD SRU, Chennai, India

- CITI - Korea -

- B.I. Chou Ph.D., Catholic University, Seoul

- CITI - Japan

- Yoshimitsu Fukushima, M.D.
Iekuni Ichikawa, MD.
Shinshu University, Japan

- CITI - Canada

- Karen Arts, RN,MS – N2, Ontario Institute of Cancer Research.

- CITI -Taiwan

- Benjamin Kuo, MD. – HuSPAT

1. 倫理はマンツーマンで教えるものではないか？

その際に必要な国際共通リテラシーを提供するものです。

2. 「なりすまし」などの不正がおきないか？

必要な学生・研究者には、「検定試験」を行ってください。

3. なぜ、CITI教材を原点とするのか？

百家争鳴の国内議論 ⇒ ⇒ 「世界標準」になりつつある教材。

4. 「日本標準」はどのように担保するか？

ガバナンスの透明可視化 + Pub Com + User Mtg ⇒ 継続的改訂

5. 「世界標準」と「国内標準」は相容れない？

「倫理」(=考え方)ですから、併記することで解決です。

6. 国からの支援→継続性への将来展望は？

金銭的＋非金銭的支援 → 利用者負担へ

7. ミスコンダクトが減る証拠があるか？

データが不足しています。研究者の姿勢を社会に示します。

良識（心がけ）は私が
そのうち教えるから、
君は研究に集中して・・・

利益相反・知的財産
オーナーシップ・個人情報
インフォームドコンセント
引用 vs. 盗用・エフォート
内部告発・バイオ・レポジット
国際共同研究, etc.

